

# 花柳 なんと読む？

2021/4/21 藤田 潔

木々の蕾もほころぶ季節となりました。花にかかわる話題を一つ。  
ここに「花柳」という言葉があります。これは何と読むのでしょうか。“ハナヤナギ”“ハナヤギ”“カリユウ”といったところでしょうか。植物にかかわるマニアックなものから伝統的な日本の文化を表現する言葉でもあります。まずは“ハナヤナギ”から。

## ハナヤナギ

少々無理がありますがカタカナ読みでハナヤナギというのを探してみると想定外でした。種名ハナヤナギというのがありました。*Chondria armata* フジマツモ科の紅藻類でれっきとした植物です。調べてみるものです。

また園芸の世界ではまさしく花柳（ハナヤナギ）と呼ばれるグループがあつて *Cuphea micropetata* ハナヤナギ を主体としたミソハギ科タバコソウ属のエゾミソハギ、サルスベリ、タバコソウなどの一群のことで、栽培品種も多くあります。

（右の画像）



ハナヤナギ

## かりゅう はなやぎ はなやなぎ

花柳（かりゅう）といえは花柳界、花柳（はなやぎ）といえは日本舞踊の花柳流が思い浮かぶのではないのでしょうか。原点をたどってみます。

そもそも花柳とは中国から入った言葉です。その昔中国では遊女などがいる地域を「柳巷花街」「花街柳巷」と称し、略して「花柳」といったことに由来しています。柳巷は柳の木を並べて植えた街路のこと、花街は花の咲いている街を指していますが艶めかしい遊女を柳と花にたとえたともいわれます。花柳流についても通説では創始者吉次郎が吉原（花柳界）で育ち、一時稽古に踊りを教えたことにちなんで花柳吉次郎を名乗ったとされています。

さらに着物の世界では広辞苑によると【花柳（はなやなぎ）】襲（かさね）の色目。表は白、裏は青、春に用いる。とあります。足元に見え隠れするコントラストはいかにも粋な感じがします。

## 花柳 植物の種類は？

はたして花柳を表す植物はなんでしょうか。まずは“柳”の方から。ヤナギの種類は勘弁して欲しいほどたくさんありますが、ここでいうヤナギは皆様ご存じダレヤナギです。大きさ、姿ともにはいりませんがなぜ外来種のヤナギなのでしょう。それは中国でもその淡い緑の樹形は重用され、日本に伝来したときはその美しさや物珍しさも手伝って植えられたものと思われます。日本の風土にもあっていました。

次に“花”ですが、日本において花と言えば万葉の頃は梅でしたが古今集の頃より花は桜と相場が決まったようです。薄紅色の桜と若緑の枝垂れ柳の取り合わせは春のほのぼのとした雰囲気ぴったりと言えます。そういえば時代劇を思い浮かべると確かに色街ではお堀があってその淵には桜と柳があったかもしれません。

京都の川沿いは桜と柳が交互に植わっています。いわゆる護岸のために各種の木を植えてみたが水に強い桜と柳が残ったともいわれます。平安時代にはすでにそうだったようで、素性法師がこんな歌を残しています。

### 見渡せば 柳桜をこきまぜて みやこそ春の 錦なりける

京の生麩専門店「麩嘉」では春の時期の煮物は柳の芽というデザインになっています。生麩の生地をピンクに染め、若草色の麩をかけてその横に小さなチョコボを。いかにも京都らしいデザインです。



和菓子でも若草色とピンクの組み合わせで春が感じられる銘菓が並びます。心象におけるマッチングでしょうから桜と柳かどうかはあなた次第です。



都の春 御菓子所 両口屋是清



桜 京菓子 鍵帳



都の錦 清月堂本店

参考/

- ・ 婦人画報監修 京都情報サイト「きょうとあす」
- ・ 麩嘉 ホームページ
- ・ Wikipedia 他